

のと考える。このことがやがて自分自身の在り方と生き方を主体的に選択でき、独自性と柔軟性を兼ねそなえた人間の育成につながるものと考えた。

そのためには、知識面だけでなく見方や考え方、感じ方、興味・関心、学習速度などの違いにみられる個人差に配慮し、個性的で確かな判断力、表現力、創造力、思考力等の能力を高める視点から、指導内容・方法を個を見つめたものに改善することが必要であると考えた。

3. 「基礎・基本」と「個性」のかかわりについて

本研究では、学習指導の場面における基礎的・基本的な内容と個性とは、それぞれが有機的関連の中にあって、初めて定着し伸長するものと解釈した。

そのためには、その両者に深く関与する判断力、表現力、創造力、思考力等の能力を重視することが重要であると考え。そしてこれらの能力を^{*}ジェクタビリティと呼ぶことにした。児童生徒一人一人の「よさ」を生かし伸ばし、基礎的・基本的な内容を定着させる上で、このジェクタビリティは重要な要因になってくると考えた。

※ジェクタビリティ (Jectability) : 造語 judgment (判断), expression (表現) creation (創造), thought (思考) のそれぞれの頭文字に-ability(能力)を合成したものである。本研究では、これを判断力、表現力、創造力、思考力等の能力と規定して用いる。

(3) 研究の仮説

本研究では、研究理論に基づいて次のような全体仮説を設定した。このことを受けて各教科ごとに教科における仮説を設定し、実践研究を通して

主題を追究することにした。

【全体仮説】

学習指導において、児童生徒一人一人の持っている「よさ」を把握し、その「よさ」を生かす視点から、達成度の個人差と興味・関心、適性に応じる指導の在り方を工夫すれば基礎的・基本的な内容を身につけさせるとともに、一人一人の個性を生かし、伸ばすことができるであろう。

《仮説の説明》

「よさ」を生かす

一連の授業に、どのように児童生徒一人一人の「よさ」を取り入れて指導していくかということ指導の在り方を工夫

指導過程において認知、情意、適性に対する指導の在り方をどのように考え、学習形態や指導形態などをいかに工夫するかということ身につけさせる

共通に身につけさせるべきものを、主体的に生涯学び続ける力となるように定着させることとともに

基礎的・基本的な内容を身につけさせる「過程を通して」、更にそれを「基盤としながら」の意味

生かし

教材とのかかわりで自分の「よさ」を意識し、そのことによって学習への意欲がかきたてられ、自分自身がかけがえのない存在であることを自覚できること

伸ばす

「生かす」状態が繰り返し積み重ねられることによって、発達段階に応じて、知識や情報などを適切に使ひこなし、自分で考え、創造し、表現する能力などが培われるようにすること